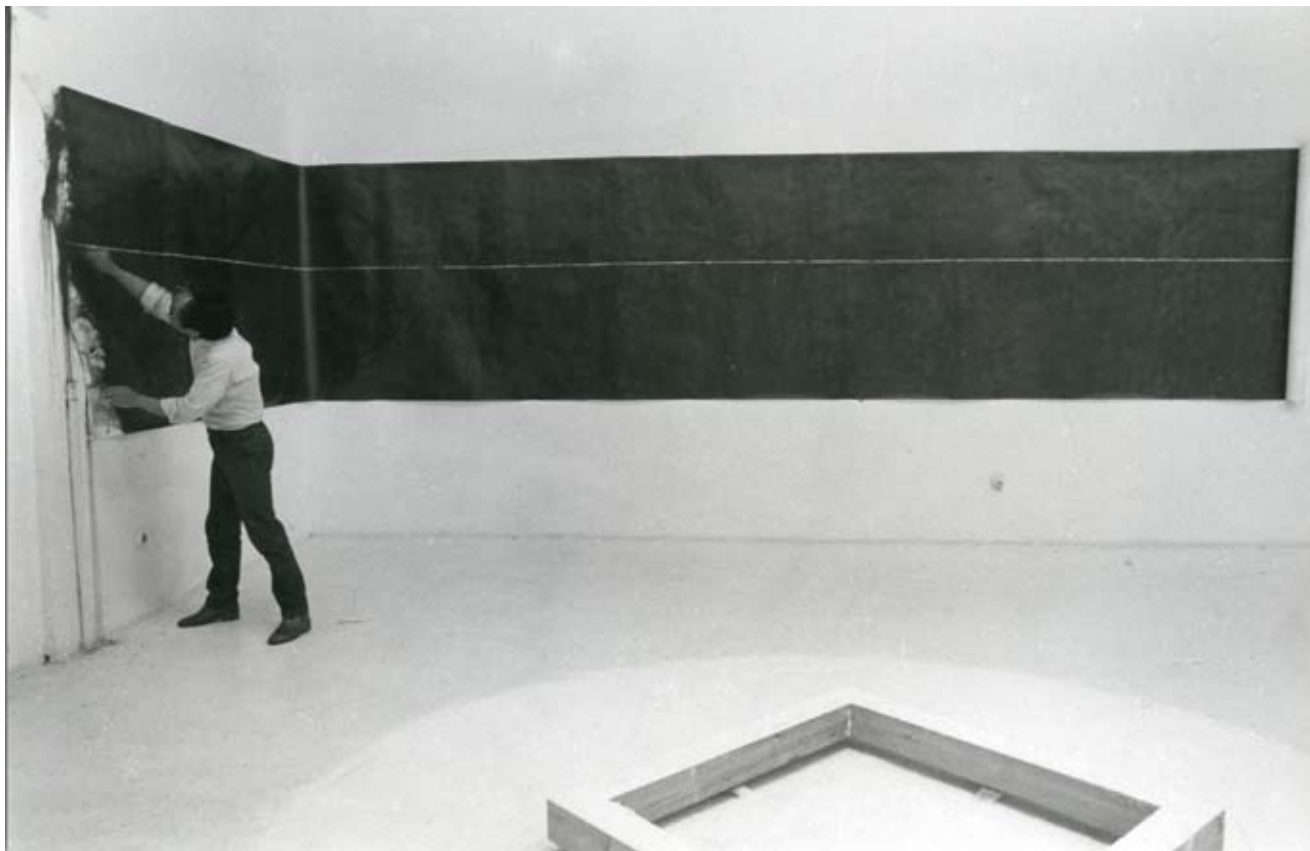


松谷武判展 ―流動―

MATSUTANI Takesada ―Stream―

大阪に生まれ、現在パリで活動する日本を代表する現代作家、松谷武判〔1937-〕の個展。
具体美術展デビュー以来、鉛筆を用いて、実験的な表現を追求してきたアーティストの世界を、近作を中心に紹介します。



《流れ10》1984年 鉛筆、ロール紙 作家蔵

1960年、松谷武判（まつたに たけさだ 1937年、大阪生まれ）は、戦後間もなく開発されたビニール系接着剤を使い、物質そのものが形作る有機的なフォルムを取り入れたレリーフ状の作品を発表しデビューしました。画面の上に膨らんだり垂れたりしている官能的な形と質感は、新しい絵画の可能性を示すとして高く評価され、画家吉原治良が率いた前衛グループ「グタイ」（具体美術協会：1954年兵庫県芦屋で結成）のメンバーとして制作を始めます。29歳でフランス政府給費留学生として渡仏、その後パリのアトリエを拠点に、一貫して黒と白の世界を描き、活発な発表を続けてきました。黒鉛の鈍く深い光に覆われたモノクロームの作品世界は、私たちの「生」そのものに訴え、緊張感や存在感を覚えずにはられません。

今回の展示では新作約10点をはじめ、現在の作品につながる80年代後半以降のパリで制作された作品を紹介します。近年では、歴史的建造物の中でのインスタレーションや演劇とのコラボレーションなど表現の場を広げ、なお旺盛な制作活動をしている松谷武判の作品世界を、本展を通してぜひ体感して下さい。

■関連企画

松谷武判氏によるパフォーマンス：2月 6日（土） 午後2時30分
アーティストトーク：2月 7日（日） 午後2時
担当学芸員によるギャラリートーク：3月 6日（土） 午後2時
3月20日（土） 午後2時
＊すべて申込不要、無料（ただし「松谷武判展」の観覧券が必要です）

会 期：2010年2月6日（土）～3月28日（日）

会 場：神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53
tel: 0467-22-5000

休 館 日：月曜日（ただし3月22日は開館）、
2月12日（金）、3月23日（火）

開館時間：午前9時30分～午後5時
〔入場は午後4時30分まで〕

観 覧 料：一般700（600）円
20歳未満と学生550（450）円
65歳以上350円 高校生100円
※（ ）内は20名以上の団体料金
※中学生以下、障害者の方は無料です。

主 催：神奈川県立近代美術館

■ファミリー・コミュニケーションの日

毎月第1日曜日（今回は2月7日と3月7日）は、
18歳未満または高校生以下のお子様連れのご家族は、
展覧会を全員無料でご覧いただけます。



《波動 S-1》2009 年
ビニル系接着剤によるレリーフ、鉛筆、カンヴァス
作家蔵



《球体》1994 年
ビニル系接着剤によるレリーフ、鉛筆、和紙、カンヴァス
作家蔵



《円 2000-1》2000 年
ビニル系接着剤によるレリーフ、鉛筆、カンヴァス
作家蔵

松谷武判さんのこと

安藤忠雄（建築家）

松谷武判 略歴

松谷とは、1960 年代半ば、共通の友人に紹介され知り合った。
飾り気なく、素朴な松谷はどこか労働者の風貌で、ごつい体格に
関西人らしい温かさがあがり、分厚い眼鏡の奥の目は優しい。
松谷よりやや後輩の私にとって、パリを拠点とし、ヨーロッパ各
地や故国日本で作品を発表し、今なお前進を続ける松谷の存在は、
励みである。
私はパリで、時間を見つけては彼のシンプルなアトリエを訪問し、
時に気に入った彼の作品をコレクションするのも楽しみだ。
いつも変わらず、素朴に生きる松谷が、今日も鉛筆で指を黒く汚
してそこで制作しているのを確かめては、一人納得する。
“ここに素晴らしい人生がある”と。 〈本展カタログより抜粋〉

1937 1 月 1 日大阪市に生まれる。
1954 大阪市立工芸高校日本画科に入学。2 年後病気のため中退。
1960 具体美術展に初出展。
1963 具体美術協会会員に推挙される。
1966 フランス政府留学生選抜第 1 回毎日美術コンクールでグランプリ受賞し渡仏。
1967 S.W. ヘイターの版画工房アトリエ 17 に入門。69 ～ 70 年助手を務める。
1970 アトリエ 17 を辞し、モンパルナスにシルクスクリーン版画工房をつくる。
2002 現代美術の普及・振興に貢献したとして西宮市民文化賞を受賞。
現在、パリを拠点に活動を続ける。



《リレーション コスタ・リカ》1996 年
鉛筆、カンヴァス、墨汁、トタン容器
作家蔵



《流動 88-C》1988 年
ビニル系接着剤によるレリーフ、鉛筆、和紙、カンヴァス、合板
芦屋市立美術館蔵



《流れ 小西邸 大阪 2001》2001 年
水、石、墨、ロール紙、音（フィリップ・ジュバー）
作家蔵